



今回は、切迫早産についてお話ししましょう！

ふだん、自分のおなかを触ってみることはありますか？寝る前のリラックスした時に両手でおなかに触れてみてください。指がふわっと中に入るような柔らかさがありますか？



**「切迫早産」** 皆さんも聞いたことはあると思います。

主な症状として、**出血・下腹部痛・規則的な子宮の収縮・破水**があります。子宮が収縮するとおなかの表面が硬くなりますが、弱い張りでは、「何となく腰の周りが重たい」「だるい」「足の付け根が引っ張られる感じがする」「生理痛のような痛みがある」と感じられることもあります。

ではなぜ、切迫早産が起こるのでしょうか？

これには、多胎妊娠や子宮筋腫合併妊娠など、切迫症状を伴いやすいとされる場合もありますが、主な原因の1つとして、**膣内の細菌やウイルスなど微生物感染**によって引き起こされる

**「絨毛膜羊膜炎」** が深く関与していると考えられています。

通常、膣や子宮の頸管には、細菌などの増殖を抑制する働きがあります。しかし、何らかの原因でこの機能が働かなくなると、炎症が進行し、赤ちゃんを包む卵膜を構成するコラーゲンの分解を進め、子宮収縮や破水などを助長することになってしまうのです。

では、どのように予防したらよいのでしょうか？

## ★感染を予防するために、毎日お風呂で 外陰部を清潔に保ちましょう。

無理に石鹸でこすると症状が悪くなることもあるので、洗い流して綺麗に保つようにしてください。

妊娠中は通常でも、水っぽく乳白色で軽い臭いのあるおりものを認めますが、

「おりものの量が多い」「臭いがきつい」「かゆみを伴う」ような場合、**カンジダなど膣炎**を起していることも少なくありません。

そのような場合、膣の洗浄や抗真菌薬の治療が必要になります。

受診時に医師に告げるようにしてください。

カンジダの場合、豆腐のかす、パルメザンチーズのようなおりものが特徴です

## ★体の抵抗力を低下させないよう、ゆとりある生活を送りましょう。

からだの免疫力が低下すると感染も引き起こしやすくなります。からだที่疲れないよう、十分な休息と睡眠をとるようにしましょう。

## ★切迫症状がある際、セックスは控えるようにしましょう。切迫症状がない場合でも、コンドームを使用することで感染予防をはかりましょう。

細菌による感染以外に、性交で感染するもの(トリコモナス、淋菌、クラミジアなど)もあります。切迫早産のみならず、出産時赤ちゃんが産道を通る際、赤ちゃんに感染することもあるので、未然に予防しましょう。

## ★すでに、切迫症状がある場合、次の外来受診まで待たず、とにかく早めに受診しましょう！

切迫早産の原因には、上記にお話した以外に、「頸管無力症」や「羊水量の異常」などもあります。

とにかく原因を調べ、必要な治療を受けることが大切です。迷わず医師に相談しましょう。

